

## 大阪平野の基盤構造アナログ模型 Analog model of basement structure below the Osaka Plain

高橋 雅紀<sup>1\*</sup>  
Masaki Takahashi<sup>1\*</sup>

<sup>1</sup> 産業技術総合研究所 地質情報研究部門  
<sup>1</sup> Geological Survey of Japan, AIST

大都市圏の地震防災とその普及活動を目的に、堀川ほか(2003)の基盤深度コンターに基づいて、大阪平野の基盤構造のアナログ模型を製作した。模型の製作は、まず厚さ1cmのスチロール板に深さ200mごとのコンター線を写し取り、カッターでくり抜いた後に重ねて貼り付け、段差を取り除いたあと紙ヤスリで整形した。つづいて、200mごとにアクリル絵の具で塗色し、地表面(海拔0m)は20万分の1の地質図を拡大した10万分の1の地質図を貼り付けた。さらに、海岸線や河川、活断層や活褶曲軸、主要な地名等を裏側に描いた透明板(ペットボトル素材)を重ね、比較のために同スケールの生駒山の模型を作成した。模型は、深さ方向が5倍に強調されている。模型を見ると、平行四辺形状の大阪堆積盆地の境界のうち、東、北、および西縁が高角度の断層であり、南縁は比較的緩やかに傾斜した基盤の形状が明瞭である。また、活断層である上町断層の他にも、基盤が大きく変位した断層が地下深部に複数認められる。これら堆積平野下の深い基盤構造によって、長周期地震動が局所的に増幅されると考えられる。

キーワード: アウトリーチ, 地球科学, 地質学, 普及教育  
Keywords: outreach, earth science, geology, educational promotion